



☆ 「QR コード」を読み取って閲覧☆

「きずな」の定期配布
 「きずな」は、市政や市議会など身近な情報を提供する地域情報紙をめざしています。定期的な配布(無償)希望の方は連絡を下さい。

第 1137 号
 2025 年 11 月 9 日
 発行 日本共産党井上かつひろ事務所
 薩摩川内市樋脇町塔之原 10439
 TEL 38-0237 携帯 080-3996-0237

川薩老施協と議員との意見交換会

介護現場の声を議会へ 物価高騰・人材確保・外国人材の住まいが焦点に

10月31日、川薩地区老人福祉施設協議会と市議会議員（3班）による意見交換会が開かれ、特養や養護、短期入所など各施設の現場から、「物価高騰による運営悪化」「人材確保の行き詰まり」「外国人材の住まい確保」という三つのテーマで意見交換がされました。議員側は、12月議会での取り上げ、市独自策の拡充、県・国への要請強化を表明。制度のすき間に落ちる現場の課題に、実務的支援を求める声も上がりました。日本共産党の井上勝博市議は3班の議員として参加しました。

■ 物価高騰は「三重苦」——食材・光熱・人件費が重くのしかかる

参加したのは、有馬綾子会長（おおむら園・つきみ園）をはじめ、和光園、翠泉苑、甑島敬老園、とうごう苑、白寿園、幸せの里、はまかぜ園、やしのみ、のぞみ園、わかまつ園、福和園などの施設長。施設側からは、赤字決算が7～8割にのぼります。人材確保は「入口が狭く、出口が開いてしまう」



老施協と市議会議員との意見交換会（= 10月 31 日、社会福祉センター）

介護研修の受講者減、高校福祉科の定員割れ、

紹介料高騰など、採用難と定着難が深刻です。

■ 外国人材の受入——住宅と移動の壁

「紹介料100万円級、派遣は3割増。人件費が経営を圧迫」「奨学金意見が出されました。返済支援を対象とする学生が少ない」などの意見が出されました。

物価高騰の影響は深刻、消費税減税は待つたなし

〔井上勝博・所感〕

■ 議員側は——「12月議会で取り上げる」

議員からは、実態把握の継続、市独自支援の改善、県・国への要望強化が表明されました。

交通機関が不便な地域の施設ほど、住まいと移動の課題が集中します。市営住宅の地域対応住宅制度（10月運用開始）

市比野小学校前道路（上之湯新開線）で、ひび割れた側溝フタ（桶脇町市比野の市）

こちら
(No. 629)
携帯 080-3996-0237
(井上)
なんでもご相談ください。



が見つかり、住民から市へ早急な対応を求める要望が寄せられました。

現場は、通学路にも

なっている小学校前の道路。側溝にかけられた蓋板のうち1枚に大きなひびが入り、このままでは落下や破損事故につながる危険がありました。

これに対し市は現地調査を実施し、「指摘の蓋板は交換します。また、同路線の県道側横

断側溝の蓋も劣化しています」と回答。すでに土木事業者に依頼済みとのことで、対応が進められています。「暮らしの中で気にならないけれど迷つている」など、身の回りの困りごとがあれば、ぜひ本コーナーへお寄せください。いつしょに解決へ向けて動きます。



「施設側の苦悩の大半は、物価高騰が原因だったと実感しました。介護現場だけでなく、暮らし全般を守るには、消費税5%への減税が喫緊の課題だとあらためて思いました。消費税率を下げれば、日用品、食料品、水道光熱費がすべて値下がります。みんなで力を合わせ、暮らしと福祉を守る減税を実現したい。」

川内原発

乾式貯蔵“で運転延長へ？

市特別委 九電の参考人招致を決定

井上市議が鋭く追及 住民説明会を要求

薩摩川内市議会の川内原子力発電所対策調査特別委員会で、九州電力が川内原発に新たに乾式貯蔵施設を設置する計画について審議が行われました。使用済み核燃料をプールに加え金属容器で保管するもので、九電は10月24日、国に設置変更許可を申請しています。

この議論のなかで、計画が原発運転の実質的な延長策であることが明らかになり、井上勝博市議（日本共産党）は強い懸念を示しました。委員会は最終的に、九州電力関係者を参考人として招致することを決定。住民の命と安全を守る立場から、問題点の徹底解明が求められます。

■ “出口”なき 核の“アミ”

当局は、九電から「乾式貯蔵施設の設置により、川内原発の運転期間が2031年まで2038年に延びる」との説明を受けたと答弁しました。井上市議は「安全対策と言いながら、実態は延命のためではないか」と指摘しました。

■九電参考人招致、委員会が決定

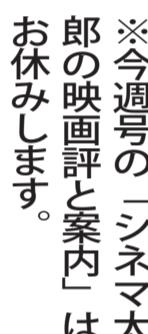
当局は「九電に丁寧な説明を求めた」と述べましたが、井上市議は「薩摩川内市だけではなく周辺自治体にも関わる重大事案。再稼働時のように住民説明会を開催すべき」と強く要求しました。

■市民とともに、
に、追及と監視
をつづける

使用済み核燃料の行き先が定まらず、延命だけが先行する今回の乾式貯蔵計画。井上市議は「未来世代にツケを回さないためにも、徹底的な検証と説明が必要」と述べ、引き続き調査と監視を続ける決意です。

■市民説明なしに進めてよいのか

全会一致で決定しました。「事業者の説明責任を果たさせ、市民の命と安全を守る姿勢



井上市議は、全国には既に1万9千トンの使用済み燃料が溜まっており、六ヶ所再処理工場の処理能力は年800トンにすぎないまま事実を示し、「搬出の前途も保証もないまま延命するのか」と追及。当局は「計画的に搬出されると認識」と繰り返すのみで、具体的な裏付けを示せませんでした。



乾式貯蔵施設の建設予定地



←中俣先生のブログはこちら

中巣先生のつれづれなるまことに（813）

A cartoon illustration of a man with a long white beard and a green coat. He is holding a yellow bird in his right hand and a black cane in his left hand. He is looking down at the bird with a gentle expression.